

王子ヶ丘77 ~王子が丘の今昔~

昼休み、王子が丘には多くの児童が歓声を上げて遊んでいます。ある日、丘に上がってみると、チャンバラをしたり、木の枝を集めてきて基地を作っている児童がいました。私も小さい頃、放課後に近所の公園で1年生から6年生までの子ども同士でよく遊んだものです。児童の遊び場となっているその王子が丘に、長く風雨にさらされ、今にも朽ちようとしている王子権現と呼ばれる小さな祠があります。ある日、本校卒業生である保護者の方から「毎年、年末にお参りしているが、祠の状態が年々酷くなってきて、不憫でならない」との話を聞き、公民館関係の多くの方々に問い合わせをしました。すると、祠は今からちょうど430年前の天正13年、羽柴秀吉の四国征伐（秀吉は四国征伐に黒田官兵衛を大将として派遣していることから、現在、NHKで放映されている軍師・黒田官



兵衛がこの地に来ていたかもしれません）の際、地元の豪族である塩崎播磨守が最後までこの王子山砦に立て籠もって、生き残った将兵とともに戦死したと伝えられていることがわかりました。また、この王子が丘の周りは王子淵という大池があり、付近は湿地帯でなかなか近寄ることができず、この砦は難攻不落であったようです。

さて、その祠ですが、30年前の昭和59年に播磨守戦死四百年祭が行われており、小学校に当時の鳥居と祠の写真が残されています。その後、いつかは不明ですが、祠は地元の有志で一宮神社に合祀されていることがわかりました。現在では鳥居がないことから、合祀の際、鳥居は撤去されたと考えられます。また、王子が丘には太平洋戦争時に作られた防空壕があるとも言われています。現在、防空壕の存在は、まだ確認できていませんが、現工業高校の場所に高射砲があったり、王子が丘の隣に住友の工場があったりしたことから、この近辺は艦載機からの爆撃目標とされ、それに備えた防空壕があったとしても不思議ではないと考えられます。もしそうであれば、祠の由来も含めて歴史的に貴重なものであると思います。史跡として大切に残し、後世に語り継ぎたいものです。

今回、祠が合祀されていたことを知って、ほっとしたとともに、公民館運営審議委員長

の近藤様、審議委員の渡辺様、秋山様をはじめ、祠の行く末を案じた多くの方々にご尽力
いただいたことに、この場をお借りしましてお礼申し上げます。

惣開小学校長 高須賀 洋